



子どもたちの学びをレベルアップ!

市では子どもたちの学習環境充実のためさまざまな取り組みを進めています。今年度、学校司書を市内全ての小・中学校に配置した目的や、ICT教育導入から2年たった現在の学習環境について詳しく紹介していきます。

図1・2ページ: 教育研究所 ☎ 870・9107 3・4ページ: ICT教育戦略課 ☎ 800・7752

図書室って
本当は「学校図書館」
って言うんだって!



学校司書を全校に配置しました

複数校に1人の学校司書が配置される他市町村の例は多いものの、全校への配置はまだ珍しく、大東市が先駆けて行っている取り組みです。

学校司書とは

学校図書館の運営を担当する専門職員のことです。学校図書館を「読書センター」「学習センター」「情報センター」として最大限活用するために、学習用資料の整備、読書案内や広報活動など、その他にも多くの仕事をします。

今までの学校図書館

- **開館時間が短い**
教員が運営していたため、授業の対応などで時間を割くことが難しかった
- **教員が資料を準備するのに時間がかかる**
本に対する専門知識がなく、探し方が分からなかった
- **本に関心のある子どもだけが訪れる場**
子どもが本に興味を持つための仕掛けが作られていなかった

“こんな学校図書館にしたい” 学校司書の思い

心が動く
学校図書館に

▶ スゴポイント1



子ども大人も
ホッとできる場所に

▶ スゴポイント2・3

子どもたちの学びを
より豊かにする場所へ

▶ スゴポイント4



～オーサービジット事業～ 四条小学校 絵本の読み聞かせ会

10月20日、四条小学校で絵本作家・岡田よしたかさんによる絵本の読み聞かせ会を開催しました。絵本を紹介すると、「この本好き!」という子どもたちの声。ページをめくるたびに笑い声上がる楽しい会となりました。

※オーサービジット事業…作家が学校園などを訪問し、お話し会やワークショップを通じて子どもと交流することにより、読書に興味・関心を持つ機会の増加を図るもの



ココがスゴイ!

学校司書がいるからできること

学校司書の配置によって、学校図書館にはさまざまな変化が期待されます。

スゴポイント

1

本に興味がわく企画がいっぱい

子どもたちが「本って楽しいな」と興味を持つように、さまざまなジャンルの本を読み聞かせしています。本の内容に合わせて、子どもに「これ知ってる?」と問いかけてみたり、クイズをしたりと楽しめる工夫がたくさんです。



▲大型モニターを使用した読み聞かせ



▲アニメの小説や物語シリーズのコーナー

ハロウィーンの時季には怖い話特集など、その季節や流行に合わせた特設コーナーを設置。また学校によっては子どもたちが興味を持ちやすいアニメ関係の本も。ふと図書館に立ち寄った時、自分にピッタリの本が見つかるかもしれません。

スゴポイント

2

いつでも開館

休み時間も授業中も放課後もいつでも開館しています。1冊の本を友だちと読んだり、学校司書と本についてお話ししたり、委員会や係活動のミーティングに使用することも。学校によっては学校図書館が「静かに読書する場所」から「さまざまな活動ができる場所」になりつつあります。



スゴポイント

3

本と子ども、本と教員をつなぐ架け橋に

子どもたちとの関わりの中で、子どもが何に興味を持っているか、どんな本が好きかを把握し、本の購入などに生かしています。教員が学習に必要な図書資料を学校司書と協力して集めることもあります。



学校司書が一人ひとりに合った本をオススメ!!



思わず考えちゃう ヨシタケシンスケ

この本は「クスッ」と笑える部分が多いので、読書に対する苦手意識がある子どもにオススメです。



パンどろぼう 柴田ケイコ

パンどろぼうの表情が豊かで、ページをめくると自然と笑顔になってしまう1冊です。家庭での読み聞かせにオススメです。

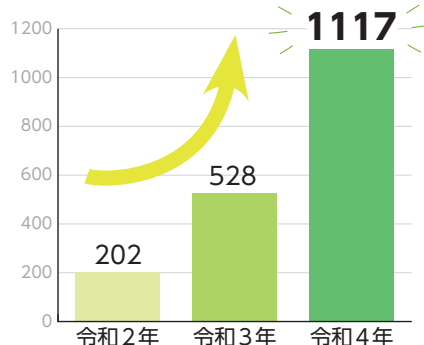
スゴポイント

4

学びの場に

学校司書が配置されたことで、日々の学習で図書資料を活用する機会が増え、子どもたちが「分からないことを自分で調べる」という習慣がつかまりました。また、市主催の『図書館を使った調べる学習コンクール』に向けて、事前に学校司書と市立図書館職員が連携して資料集めなどの準備を行うことで、子どもたちも安心して取り組むことができ、多くの子どもの参加につながりました(10ページに関連記事あり)。

大東市・図書館を使った調べる学習コンクール応募数



ICT×教育 学校現場のいま



市では、従来の授業とICTを組み合わせ、効果的に子どもたちの学力アップをめざしています。

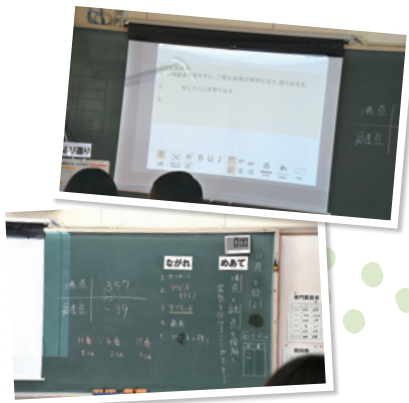
※ICT…情報通信技術を活用したコミュニケーション

北条中学校を取材しました!

～理科の授業～

ICTを活用して授業の効率化を図り、グループディスカッションにも力を入れています。

1 知識のインプット



タブレットPCの画面を大型スクリーンに映します。特に覚えてほしい事柄は板書で説明するなど場面によって使い分けています。

2 グループで問題を解く



個々で問題を解き、教員が解説するという授業とは異なり、グループで協力して応用問題を解きます。生徒による自発的な学習を促しています。

3 解答のアウトプット



グループで導き出した解答はタブレットPCでまとめます。画面をスクリーンに映すことですぐに発表でき、提出も簡単です。

理科の実験では

実際に器具に触れて手を動かします。その様子を動画に撮って後で解説を加えることもあります。



AI型デジタルドリルで個々にあった学習を



個々の学力に応じた問題を出題するAI型デジタルドリルを導入しています。自分に合った問題を解くことで理解が進み、効果的な学習につながります。また、教員にとっても生徒たちの学習状況を確認でき、個々に合ったフォローができるようになりました。



情報モラル学習教室



インターネットを利用する上での注意点を、生徒自身が理解し、判断する力を身に付けるために、専門の講師を招いています。

ICTならではの

チャットで生徒たちとコミュニケーションを

北条中学校では生徒と教員との連絡にMicrosoft Teamsのチャット機能を利用しています。その日の授業の板書を投稿するので、生徒は授業の振り返りができます。また、教員は生徒への連絡事項のプリントや配付の作業も減っています。



いつでも先生に質問できるので便利!



先生へのインタビュー!

ICTの活用で学びの楽しさを 知ってほしい

西村先生(担当教科:理科)



Q 今後ICTを活用してどのような授業をしたいですか?

A オンラインで専門性の高い講師を招いて、一つのことを深く研究する授業がしたいです。生徒の興味がある分野を深掘りして、学ぶことが楽しいと思えるようになってほしいです。



Q ICTを活用して、生徒たちが自ら取り組んでいることはありますか?

A 生徒会ではタブレットPCの活用ルールについてアンケートを実施し、自分たちで正しいタブレットPCの使い方を考える取り組みをしています。



Q ICTの活用により効果があったと思うことはありますか?

A 全国学力・学習状況調査では、自ら考えて解く問題の成績が伸びています。ICT教育の成果のひとつではないかと思います。



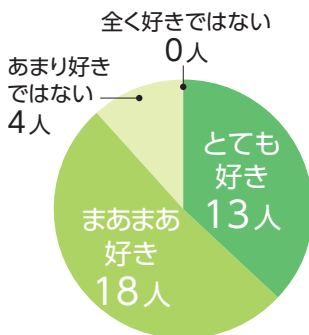
生徒に聞きました

ICTを活用した授業ってどう思う?

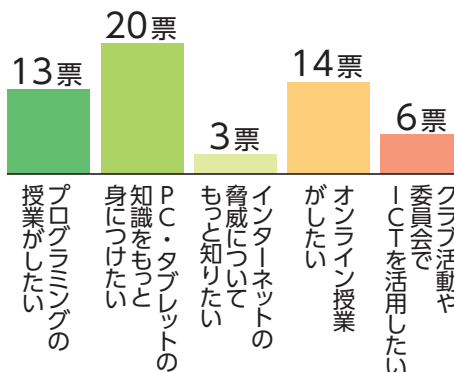
西村先生の授業を受けている生徒35人に広報スタッフがアンケートを実施しました。寄せられた回答から、ICTによるさまざまな工夫で生徒たちのやる気を引き出していることが分かります。



Q タブレットPCを使った授業は好きですか?



Q 気になることはありますか?
(複数回答)



Q 良かったことはありますか?(自由意見)

分らないことをすぐに調べられる

タイピングが速くなった

パワーポイントで資料を作る練習ができる

これからのICT教育

市の小・中学校では、1人1台のタブレットPCを活用することで、従来の一斉学習とは異なる個々の学力に応じた効率的な学習が可能になりました。一方で、学習の場面で子どもたちが孤立することのないよう、従来の学び合う授業スタイルとICTそれぞれの利点を生かしながらクラスメートや教員との円滑なコミュニケーションを図っています。

市はICTを活用した教育を通じ、学力の向上だけでなく、子どもたちが安心して学べる学校づくりを進めていきます。

タブレットPCの使い方 3つの約束

- 1 おうちで決めたルールを守ろう!
- 2 乱暴に扱ったり、わざと壊したりしない!
- 3 「情報モラル学習教室」で習ったことに気を付けよう!

